

平成30年度 第3回瀬戸市環境衛生審議会議事録		
日時	平成31年2月18日(月) 午後2時から午後4時まで	
場所	瀬戸市役所1階 104会議室	
出席者	委員	出席者：小林委員、藤井委員、伊藤委員、服部委員、 林委員、吉田委員 欠席者：なし
	事務局	長谷川市民生活部長、山内課長、長江課長補佐兼環境保 全係長、久野ごみ減量係長、石垣ごみ減量係主事
傍聴者		1名
1 開会 ・長江補佐から会議成立の報告 ・長谷川部長から挨拶		
2 議事 (1) 瀬戸市一般廃棄物処理基本計画の中間見直しについて		
会長	ごみ処理は避けては通れない問題であるが、費用はしっかりかかる。瀬戸市のごみ排出量は若干減っているが、昔のように大きく下がることはない。それはある意味、市民の方がしっかり分別をしていることの裏返しと言える。今後、どのようにごみ減量を進めていくべきかについては、課題が明らかになってきたため、これから優先順位をつけながら着実に進めてもらえればと思う。ごみ処理の適正負担検討についても市民サービスを低下させることなく、皆さんがおおよそ納得いただける方法を議論し提示していきたいと考えている。また私も関わっている紙おむつのリサイクルについて特集が地上波で放送される。 今後、5年、10年先を見据えた議論をしていきたい。	
委員	ごみ減量推進会議で議論した結果を「瀬戸市一般廃棄物処理基本計画（平成26年度～35年度）の中間見直しについて」を基に報告。	
事務局より資料1「基本計画関連資料」について説明。		
委員	資料p. 5 市民一人あたりごみ処理費について、尾張東部衛生組合の構成市である尾張旭、長久手市はそれぞれどのぐらいか。	
事務局	細かい数字はすぐには出てこないが、この2市も県内で安い傾向にあり、瀬戸市も2番目に安い。理由は尾張東部衛生組合の処理費が安いためである。	
委員	p. 6「基本方針を実現するための施策の体系」実施状況と実施の方向性について、以前の会議では「拡大」が多かったが、「着手」の項目も大変だと思うので心配している。市としては成果をあげたいので、いろいろやりたい気持ちはよくわかるが。 また衛生委員を通じた活動については、以前から申し上げているが	

	委員が1年で交代してしまうこともあり難しいと思う。
事務局	衛生委員の話については、ごみ減量推進会議でもよく話題に上がるテーマである。衛生委員の方が毎年交代することを逆手に取れば、毎年違う方に口頭でごみの話をお伝えできる機会があると前向きにとらえている。
委員	効範連区では、「防火・防犯委員」と「衛生委員」が同じ席でそれぞれの説明を受けており、しっかり伝わっているのかという印象。他の連区は違うのかもしれないが。
会長	p. 6資料の中で、「着手」のうち地域における大型生ごみ処理機貸与等の検討については予算の問題もあり難しい。「容器包装ごみの発生抑制」については、社会全体で大きな課題となっている。リサイクルについては事業者と連携しながら余力があれば進めていけると思われる。啓発活動については様々な課題あるため、少しずつ改善していった欲しい。 ちなみに、日進市の市民一人あたりのごみ処理費は、1万円近くかかっているため、瀬戸市はとても安いと感じる。
事務局	安い理由としては、焼却場をフル稼働に近い状態で稼働できていることと最終処分場を構成市の中で保有できていることがあげられる。
委員	今後は、高齢者のごみ出し対策、外国人の方へのごみ出しルールの啓発、集合住宅住民への啓発のため集合住宅の管理会社へ講習を行うことが必要と感じている。
事務局	瀬戸市に限らず、顕在化している問題である。菱野団地では、自治体が外国人の方にごみ出しルールを伝達したり、子どもにごみの教育を行い、子どもから親に伝えてもらうといった取り組みもあったようだ。介護を受けている方には「ふれあい収集」のサービスも行っているが、それ以外にごみ出しが難しい方にも対策を考えなければならないと考えている。
会長	ごみ減量推進会議で精力的にご議論いただき感謝する。
委員	p. 7にある付議事項については、「継続」になっている項目もあるが、せっかく付議事項として挙げているのであれば「拡大」としてもよいのでは。
会長	私もそのほうがよいと思う。資料については修正をお願いしたいと思う。他に意見がなければ、採決に入る。答申案について、賛成の方は挙手をお願いします。
全員挙手	
会長	この案は妥当であるということで、本審議会の答申とする。
事務局	ご審議御礼申し上げます。今いただいた意見をもとに答申の最終版を

	確定し、事務局から会長にいただきにあげたい。他の委員の方には写しを送付する。
会長	続きまして議事の(2)、(3)につきましては、瀬戸市からの諮問案件とのことであり、事務局より願います。
事務局	瀬戸市長より、新たな諮問を2点させていただきたい。 1点目は「瀬戸市一般廃棄物処理実施計画」、2点目は「ごみ処理費の適正負担の検討」について。2点目は、本日の審議だけでは結論が出ないため、来年度も継続審議とさせていただきたい。市長に代わり、市民生活部長より本審議会に諮問書を提出させていただく。
(2) 瀬戸市一般廃棄物処理実施計画について	
会長	ごみ処理費の適正負担の検討については、難しい議論になるが皆さんの知恵をお借りしたいと思う。まずは、資料2について事務局より説明をお願いします。
事務局より資料2「平成31年度瀬戸市一般廃棄物処理実施計画」について説明。	
会長	地域団体等との連携による取り組みの実施とあるが、具体的にはどのようなことか。
事務局	衛生委員委嘱式の際に衛生委員にごみの勉強会を行ったり、商工会議所の活用があげられる。
会長	現状のごみ量は、目標値とは大きく乖離しているものの、いよいよ準備は整ったと感じている。事業系可燃ごみ量が、昨年と比較して減っているが、どのように考えているか。
委員	事業者側も経費の問題として捉えているのではないか。ごみを出せば出すほど、経費が増えるため、コストを意識して取り組んだ結果ではないかと考える。
委員	逆に事業系可燃ごみが、平成28、29年度と増加していたのはなぜか。
事務局	平成25～29年度は増加し続けており、よく言えば景気上向きによるものと思われる。ちなみに、長久手市は事業所自体が増えたため事業系ごみが増え続けており、当初の計画では目標達成に至らないことが明確になったため、計画数値の変更を行うようだ。
会長	組成調査結果を見ると、「手つかず食品」が5%ある。生ごみは絶対に発生してしまうものだが、「食べ残し」や「手つかず食品」は市民の意識改革で減らす余地があると思われる。 他に意見がなければ、採決に入る。平成31年度瀬戸市一般廃棄物処理実施計画案について、賛成の方は挙手をお願いします。
全員挙手	
会長	この案は妥当であるということで、本審議会の答申とする。

事務局	ご審議御礼申し上げます。今いただいた意見をもとに答申の最終版を確定し、事務局から会長にいただきにあげたい。他の委員の方には写しを送付する。
(3) ごみ処理費適正負担の検討について	
事務局より資料3について説明。	
会長	責任の重い議論になると思われるので、時間をかけてやっていきたい。本日についてはまずは課題出しになる。ごみ処理の適正負担方針の決定期限目標は、平成32年3月となっているが、大変短いという印象。その背景には、晴丘センターの改修工事が控えているためであろうが、構成市町の人口はどのぐらいか。
事務局	26万人程度である。
会長	工事費が50億程度とのことなので、一人当たり2万円程度になる。
委員	50億の建設費を3市で負担するという事で合っているか。
事務局	その通りである。概ね半分が瀬戸市になる。
事務局	詳しい数字でいうと建設費のみで52億円程度。加えて工事期間中に一部、ごみを市外搬出するための費用として数億円かかることが見込まれている。極力、市外搬出するごみは減らしたいと考えているため、この期間中にごみが増加するような行動をおおることは避けたい。どのようなやり方で適正負担をお願いするのかを審議会やごみ減量推進会議でアイデア、知恵を出し合い検討していきたい。その参考材料として、市民アンケートやタウンミーティングを実施し、市民の声を聞きながらやっていきたい。
委員	延命化で約50億、その10年後には建替え工事が控えているためそれを踏まえて議論しないといけない。
委員	市民感覚として、ごみ袋の値段が高くなる代わりに、何かいいことがあるのかと考える。市民の皆さんがどのように考えているのか、市民アンケートでは質のある質問をしていただかないと市民は納得しない。例えば、戸別収集の実施もあわせて議論して欲しいと考える。市民感情を取り入れてご意見をうかがってほしい、市民の声を聞くということはとても大切である。
会長	議論の進め方については、市民の声をしっかり伺ってやるべきである。市民との議論をスタートする場合、有料化をするという前提で行うのか、実施するかしないかから議論するのかで大きく変わる。おそらく実施するという方向でいると思うが、そこをどうするのか。タウンミーティングの際も、「実施すべきか、しないほうがよいか」もしくは「どういう形で有料化を進めていくべきか」と聞き方次第で違う議論になる。

委員	有料化しないと工事費は市の一般財源から捻出することになるのか。
事務局	一部は、交付金や借入金にてまかなうことになる。
委員	ごみ袋の値段をいくりに設定すれば、市の歳入はこれだけ増えるという数値がわかれば目安になる。
会長	それは負担額の大小で有料化するかしないかを議論するということか。
委員	有料化する場合は値段算出の目安になる。実施しない場合は市の一般財源から出すことになるが、めぐりめぐって市民サービスの低下につながることを予想される。よって、受益者負担という考えからも、一定程度の負担をすべきと考える。
委員	主婦目線では、目先の金額を追う傾向にある。ごみ袋の値段が上がらば、ごみを減らして袋の購入枚数を減らそうという意識につながるため、ごみ減量のためという考えもありだと思う。また晴丘センターの工事もあるため、有料化でプールできた資金を使えるかもしれない。結果として、ごみ減量につながればありがたい。しかし、あまりにも高い金額を提示されてしまうと、主婦が難色を示すかもしれない。 また高齢者はごみを家に溜め込む方もいるようだが、出したくても出せないということなのか。
委員	出したくても出せない方はいる。いろんな方の手助けや市の制度があることも知っているが、近隣の方にその制度を伝えてもどのように申請していいのかわからないというのが現実。
委員	料理を自分でできない方は、容器に入った食べ物を食べるため、ごみが増えてしまう。逆に、自分で料理する方ならば減らす余地はあると思われる。
委員	使用済みのおむつについて、自分でごみとして出せない人もいる。
委員	介護のほうで「お助け隊」という制度がある。高齢者や子どものいる世帯では紙おむつのごみが多く出る、今年の組成調査ではそれほど割合は多くなかったが。
会長	全国平均では5%程度である。
委員	生ごみ以外のごみを減らすことは難しいかもしれないが目先のことを言うと、ごみ袋の値段が少し高くなったほうが主婦の意識は変わると考える。
委員	有料化すると、他の人が出したごみ袋にごみを入れる人が増えるかもしれない。実際に、現在でもそのような光景を目撃することがある。有料化ありきで進めると、アンケートなどに市民の意見が反映されるものになるか不安に思う。丁寧な対応を行わないと市民に伝

	わらず、不満が出てしまう。
委員	ごみに関心を持っている人が少ないのが現状。その状況で、単純に有料化というのは反対であり延命化工事の内容をお知らせすることからスタートしてほしい。自治会長をやっているため、自分の地域を利用してほしい。有料化するかしらないかの議論から始めてほしい。
会長	延命化工事の10年後には、建替えが控えているがわかっていたことなのでそれまでになぜお金の積み立てをしてこなかったのかと言われてしまう気がする。延命化するからお金を負担してというのは大人げない気がする。
委員	説明ができるかどうかである。
会長	市民サービスのため、今後のごみ収集をどうしていくのか、高齢者に寄り添うようなサービスの議論をセットで説明すれば、納得してもらえる人も増えるのでは。
委員	「一定量無料型」は市がごみ袋を配布して、袋が足りない方が不足分をスーパーで購入することになるが、それは有料化と言えるのか。
事務局	「一定量無料型」を採用している自治体については、直接確認したわけではないが、財政面からではなくごみ減量を進めるための施策だと思われる。
委員	ごみ減量してほしいければ、この制度を進めればいいのか。配布された袋でごみ量を収めようと努力する。
事務局	「一定量無料型」だと、無料配布分に市費を投入することになるため、財源が必要になる。
会長	瀬戸市の袋の値段は1枚いくらぐらいか。
委員	約12円である。
委員	10円から12円に上がったときは、買占めがおきて、お店からごみ袋の在庫がなくなった時期があった。
会長	名古屋大学では、約45ℓの可燃ごみ袋1枚200円のため、研究室の費用で払っているが高い。ごみ袋の値段が上がると、ごみ量は減ると思われるので、ごみ袋の値段を上げて結果として市の収入は変わらない可能性があるのか。
事務局	ごみ量は減ることが期待される。値上げ額が低いと、袋の購入枚数が減るので財政的な効果はない。財政的な効果を得たいのであれば、値上げ額は大きくする必要がある。
会長	議論のスタートをどこにするか決めないと、タウンミーティングを開催することができないと考えている。ごみ袋の価格をどうするか、付随サービスはどうするかという議論をするなら有料化前提の話になる。実施しないならば、市の他分野の財政を圧迫するため、どのサービスを減らすのかという話になるかもしれない。議論の仕方が違って来るため、いつこれを決めるのか。

事務局	適正負担の検討という言い方をしているのは、有料化ありきではないため。検討の結果、ごみ袋の値上げは必要ないという判断もありうる。晴丘の工事に伴いごみ減量を進めていただきたいため、目標値が達成できた場合、値上げしない可能性もある。そういった部分から議論をスタートしたい。
委員	ごみ袋が高くなればごみ量が減るとは限らない。行政や自治会でも水切りなどの取り組みの周知等を一生懸命やっているが、無関心な人は無関心なまま。関心ない人に伝えることは難しい。
会長	市が負担すべき費用は、改修及び市外搬出費用。この費用がかかるのは何年間か。
事務局	約2年あるが、市外搬出については2年間ずっとではなく、工事工程の工夫により極力市外搬出量が少なくすむよう考えている。
会長	費用の試算がある程度ないと議論が難しい。
委員	改修工事のために有料化となると市民は納得しない、なぜ改修工事が必要なことがわかっていたのに資金を用意していなかったのだという反発が出るかもしれない。適正なごみ量を設定してこれを超えた場合は、受益者負担金をいただきたいということならば説明しやすいと思った。
委員	町内の部会で、延命化工事の費用やそれに伴いごみを減らして欲しいという説明をしたらある程度納得いただけた。関心を持ってもらえたのでこれを続けていくことがまだ必要だと思う。わかってもらうまでが難しい。
会長	工事が終わってからは、新しいサービスの開始資金に充当するといった話があってもよいと思う。改修工事をするからお金を出してくださいだと乱暴になってしまうかもしれない。
委員	財政が厳しい中で、市民の皆さんにもご負担いただけませんかということで市民の理解を得られれば問題ないが。まずは情報提供して理解を得られる方向に持っていかないといけない。
委員	減少はごみを1袋出しても2袋出しても、市民の負担はそれほど変わらない。
委員	尾張旭、長久手市と連携して進めていくのか。
事務局	各市町の判断になっている。長久手市は1枚15円と安いながら有料化済みであり、その値上げはしづらいとのこと。尾張旭市は、「ごみ減量」のために有料化の検討を行っていたが、ごみ減量が進んでいるため実施を見送るという結論になりそうだ。
事務局	議論は白熱しており、実施すべきかしないかで2転3転していると聞いている。
委員	数字の部分は大切であり、総排出量の目標を達成すれば市の財源がこれだけ潤うということを示さないと、市民も話ができない。ここまで減らせばここで抑えられるといった目標が必要だ。有料化する

	にしても10年後に建替え工事があるため、それに向けて積み立てしていくことも考えながら長期的な議論をすべきである。
事務局	少しずつではあるが、積立ては行っている。
会長	<p>各種数字は次回までに準備いただくとして、有料化するかしらないかのところから議論を始めたいと思う。議論内容は、減量するためなのか、費用負担のためにするのか。費用負担のためとする場合、収集運搬費用のためなのか、それとも一時的な工事費用のみとするのか。サービス向上についても議論要。また、工事期間と有料化の議論スケジュールが一緒になったものを示していただくと、議論しやすくなるため整理してほしい。</p> <p>一番、肝心なことはごみを減量することである。商工会議所でも「3010運動」の取り組みをしていただくなど意識の高まりが見られる。単にごみを出すなど言ってしまうと、物の買い控えにつながってしまう。紙おむつリサイクルにも関わっているが、時代の変化や技術革新により工夫できることを組み合わせると共に生活、経済の問題などできるだけ加味して議論していただきたい。ごみ減量推進会議の皆様には、ほぼ毎月活発に議論を行っていただいております引き続きお願いしたい。</p>
委員	生活排水処理率について、あわせて下水道普及率の数字も知りたい。生活排水の表だけ見ると、市内の下水道がすごく普及しているように感じてしまう。
事務局	瀬戸の下水道普及率は6割程度である。適正に管理されている合併処理浄化槽は下水道と同様の効果が得られる。しかし、環境負荷が高い単独処理浄化槽の世帯もまだまだいることは事実である。
委員	浄化槽でも環境負荷を減らせるのであれば、無理して公共下水の普及をしなくていいのではという意見もある。できれば下水道普及率の数字もあわせて載せてほしい。
会長	ご検討いただければと思う。
(4) その他	
会長	何かございますでしょうか。
事務局	様々な数値を用意するとともに、市民アンケートやタウンミーティングを想定した資料を作成することになるので、次回の開催は6、7月頃を予定。